



2026年3月期 第2四半期 決算概要

シスメックス株式会社
2025年11月5日

Together for a better
healthcare journey

Disclaimer

- 本資料のうち、売上予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。
- 本資料に記載されている製品等の情報は、薬事認可取得の有無に関わらず宣伝広告および医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 当社グループは、2017年3月期より国際会計基準（IFRS）を適用し、IFRSに準拠して開示しております。

Index

1. エグゼクティブサマリー
2. 2026年3月期 第2四半期決算概要
3. 成長戦略の進捗
4. 2026年3月期 業績予想

(補足資料)

1. エグゼクティブサマリー

第2四半期累計実績

● 第2四半期では回復も、第1四半期に発生した特殊要因の影響や円高などにより、減収減益

前年同期比 売上高：95.9%、営業利益：74.1%、中間利益*：73.1% *親会社の所有者に帰属する中間利益

- 米州・EMEA・APは伸長も、日本での第1四半期のシステム切り替えに伴う受注制限や中国の市場環境の変化、円高の影響などにより、減収
- 第1四半期に発生した棚卸資産の評価額見直しや、売上減少による粗利益減少、販管費の増加などにより、減益

● 中国の医療費抑制政策の影響拡大

- 政府主導の医療費抑制政策の影響で、必要最小限の原則および代理店の在庫調整などにより、減収。売上は現地通貨ベースで前年同期比82.1%

2026年3月期 通期業績予想

※ () 内は対期初公表

● 売上高5,100億円（△250億円）、営業利益760億円（△155億円）へ下方修正

ー第1四半期に発生した特殊要因に加え、中国での市場環境変化、新たな成長要素である生化学事業開始時期が、当初想定よりも若干後ろ倒しになったことによる影響などで対計画で減収。
中国を除く海外地域が好調で対前年増収 (+0.3%)

ー営業利益は、第2四半期以降改善も、特殊要因が発生した第1四半期の影響を受け、減益

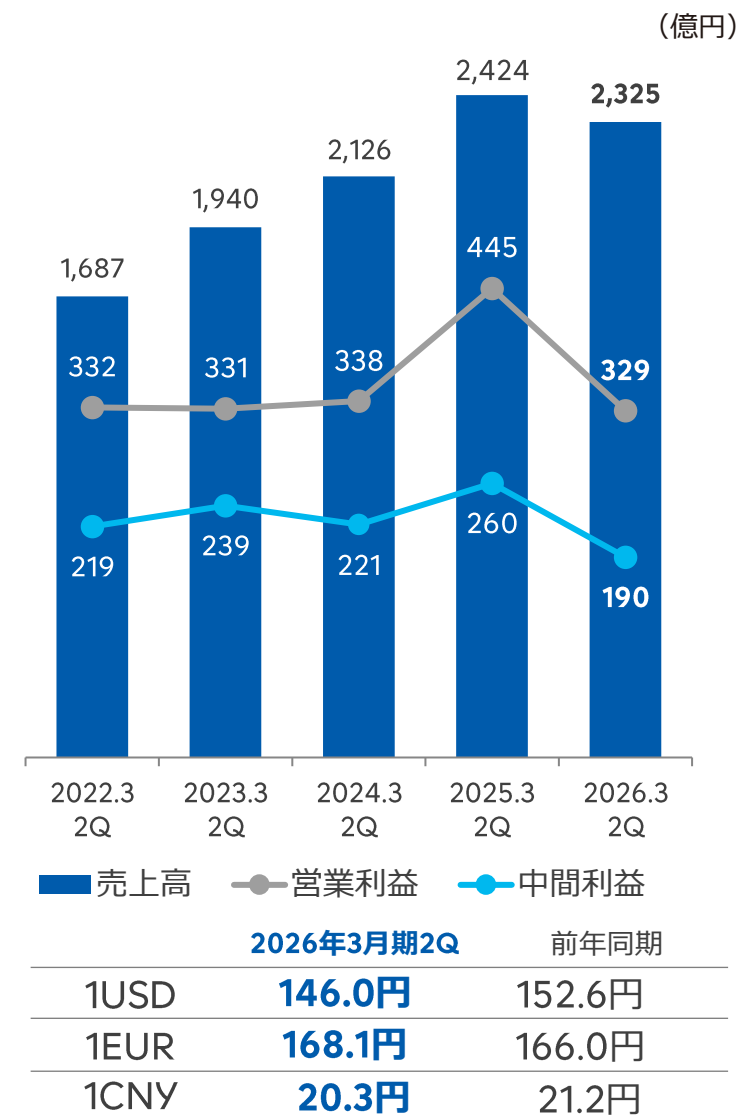
2. 2026年3月期 第2四半期決算概要

決算総括（対前年）



(億円)	2026年3月期2Q		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	2,325.2	100%	2,424.7	100%	95.9%
売上原価	1,099.7	47.3%	1,111.8	45.9%	98.9%
販売費及び一般管理費	778.7	33.5%	723.7	29.8%	107.6%
研究開発費	132.0	5.7%	152.3	6.3%	86.6%
その他の営業損益	14.7	0.6%	8.1	0.3%	180.8%
営業利益	329.5	14.2%	445.0	18.4%	74.1%
親会社の所有者に 帰属する中間利益	190.1	8.2%	260.0	10.7%	73.1%

- **売上高** : 第1四半期の日本の基幹システム切り替えの影響や中国の市場環境変化、円高の影響などにより、減収
- **営業利益** : 第1四半期の棚卸資産評価見直しや売上減少による粗利減少、円高、販管費の増加などにより、減益
 - ✓ **為替の影響** 売上高 △48.4 億円、販管費 △8.8 億円、営業利益 △15.9億円
 - ✓ **前年同期為替レート適用の場合** 売上高 97.9%、販管費 108.8%、営業利益 77.6%
- **中間利益** : △26.9%の減益 為替差損益 : △6.8億円（前年同期比+33.4億円）



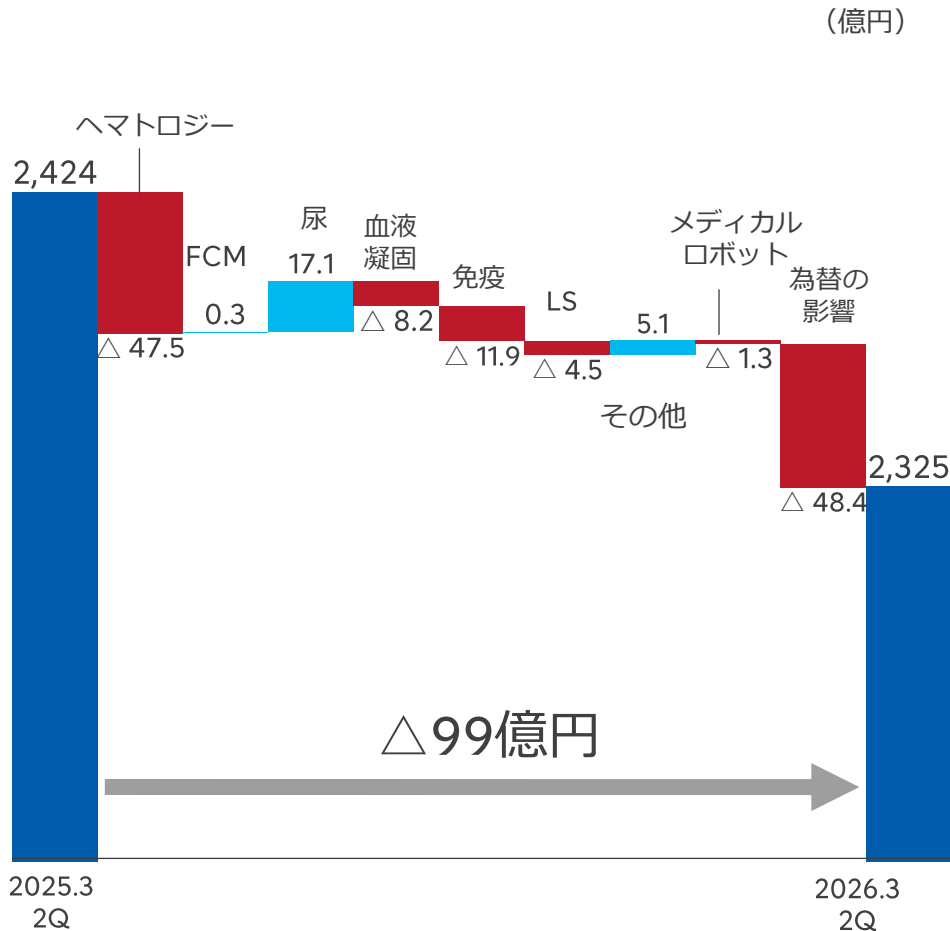
第2四半期実績（対第1四半期）

日本の試薬売上回復および各地域の増収効果などにより、収益性が1Qから大幅改善

(億円)	2026年3月期1Q (4月-6月)		2026年3月期2Q (7月-9月)	
	実績	構成比	実績	構成比
売上高	1,057.3	100%	1,267.9	100.0%
売上原価	512.6	48.5%	587.0	46.3%
販売費及び 一般管理費	382.9	36.2%	395.7	31.2%
研究開発費	64.0	6.1%	67.9	5.4%
その他の営業損益	8.6	0.8%	6.0	0.5%
営業利益	106.2	10.1%	223.2	17.6%
親会社の所有者に 帰属する中間利益	45.5	4.3%	144.6	11.4%

売上高の増減要因（事業別・分野別）

事業別・分野別売上高



尿分野は好調も、日本・中国の影響により主要分野が減収

(億円)	2026年3月期2Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	2,325.2	100.0%	95.9%	97.9%
ヘマトロジー	1,405.8	60.5%	94.6%	96.8%
FCM	16.0	0.7%	101.3%	102.4%
尿	206.8	8.9%	105.8%	108.8%
血液凝固	351.1	15.1%	95.5%	97.7%
免疫	102.8	4.4%	87.7%	89.8%
生化学	12.8	0.6%	72.6%	74.1%
ライフサイエンス	101.7	4.4%	96.2%	95.7%
その他	112.1	4.8%	109.4%	109.4%
ダイアグノスティクス事業	2,309.5	99.3%	95.9%	97.9%
メディカルロボット事業	15.7	0.7%	91.9%	91.9%

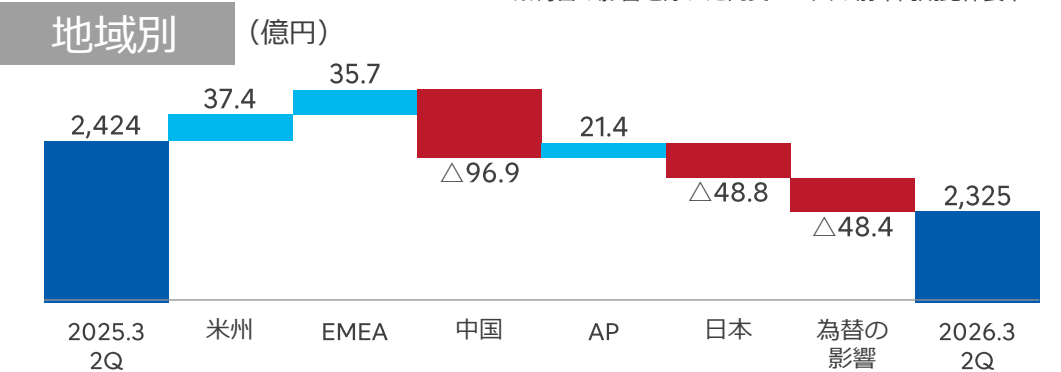
売上高の増減要因（地域別・品目別）



米州、EMEA、APが伸長するも、日本・中国の影響により減収

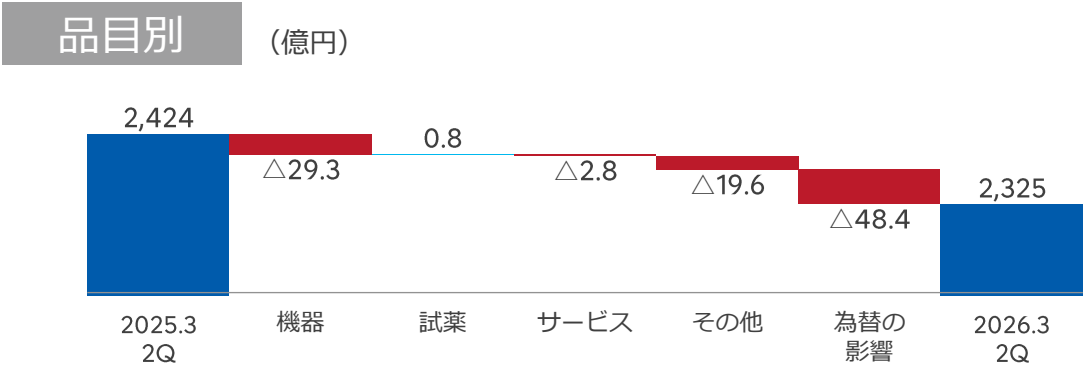
(億円)	2026年3月期2Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	2,325.2	100.0%	95.9%	97.9%※
米州	646.8	27.8%	101.5%	105.9%
EMEA	729.6	31.4%	105.6%	104.2%
中国	432.8	18.7%	79.4%	82.1%
AP	261.5	11.2%	105.7%	108.7%※
日本	254.3	10.9%	83.9%	-
機器	438.9	18.9%	92.2%	93.8%※
試薬	1,475.9	63.5%	97.9%	100.1%※
サービス	322.3	13.9%	96.7%	99.1%※
その他	88.0	3.8%	81.2%	81.9%※

※為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸長率



地域別の主な増減要因 *現地通貨ベース

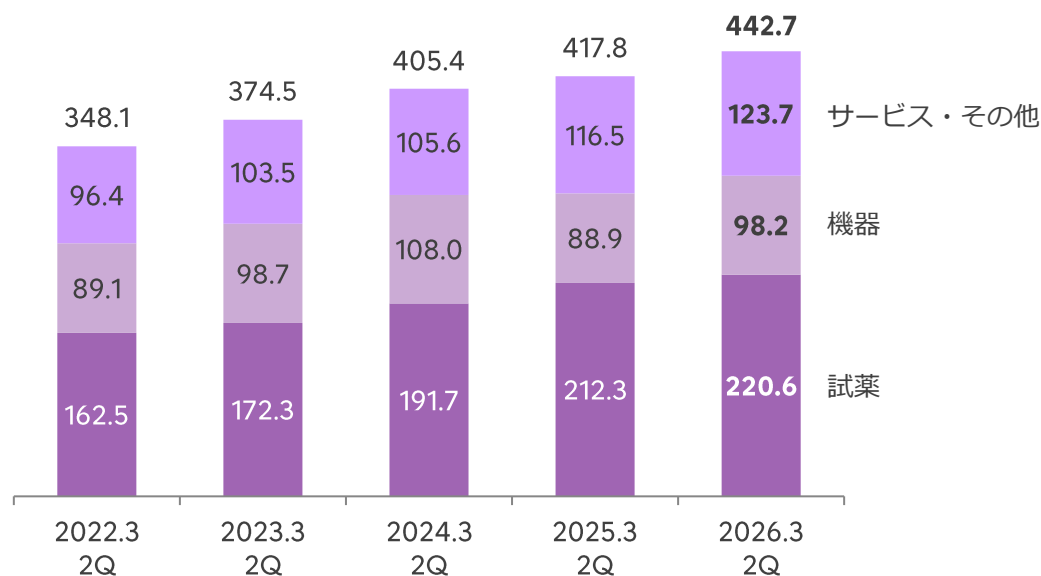
米州	• 1Qからの北米好調は継続、中南米も2Qに入り大きく伸長 2Q単では対前年+8.8%と高成長し、 増収
EMEA	• 中東における地政学的影響により、トルコやサウジアラビアなどが減収も、主要国を中心に機器・試薬とも好調に推移し、 増収
中国	• 新たな医療費抑制政策（必要最小限の原則）の影響に加えて、代理店の経営悪化による在庫調整などが進み、 減収
AP	• 機器は減収も、ヘマトロジー・尿分野の試薬が伸長し、上期は 増収 2Q単は、インドヘマトロジー分野の試薬伸長が牽引し、2桁 増収
日本	• 前年度の機器好調の影響や1Qの基幹システム切り替えに伴う受注制限が影響し試薬が 減収 も、2Q単の 試薬売上は通常水準へ回復



米州（地域別）

(Million USD)	2026年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	442.7	417.8	105.9%	101.5%
機器	98.2	88.9	110.5%	105.9%
試薬	220.6	212.3	103.9%	99.5%
サービス・その他	123.7	116.5	106.2%	101.7%

売上高推移（Million USD）



1Qから北米好調は継続、中南米も2Qに入り大きく伸長。
2Q単では対前年+8.8%と高成長し、増収

● 機器

- ✓ ヘマトロジー・尿・血液凝固分野が好調に推移し、増収
- ✓ 下期は新製品の販売開始により、さらなる増収を見込む

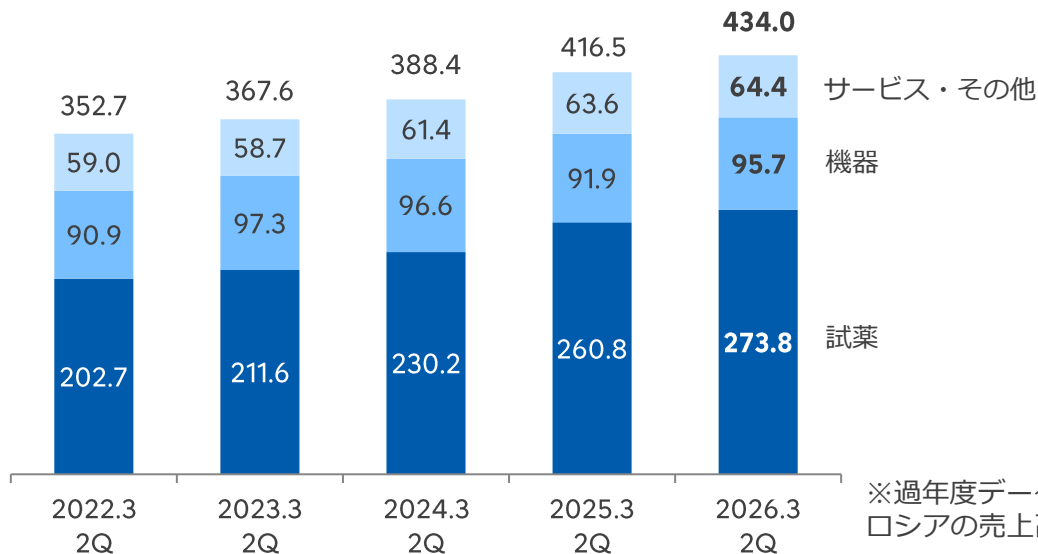
● 試薬

- ✓ ヘマトロジー・尿分野が順調に推移し、増収
- ✓ アミロイドβ検査試薬も堅調に推移 (売上高3.4 MUSD、対前年+60%)
- ✓ 血液凝固分野は機器販売増加による増収を今後見込む

EMEA（地域別）

(Million EUR)	2026年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	434.0	416.5	104.2%	105.6%
機器	95.7	91.9	104.2%	105.7%
試薬	273.8	260.8	104.9%	106.3%
サービス・その他	64.4	63.6	101.3%	102.3%

売上高推移（Million EUR）



※過年度データを含め、ロシアの売上高を除く

中東における地政学的影響により、トルコやサウジアラビアなどが減収も、主要国を中心に機器・試薬とも好調に推移し、増収

● 機器

- ✓ フランスや北欧などでXR™シリーズが好調に推移した他、イタリアやスペインなどで尿分野が伸長し、増収
- ✓ 血液凝固分野は、ドイツでCN™シリーズなどの大型案件を獲得、今後さらなる成長を見込む

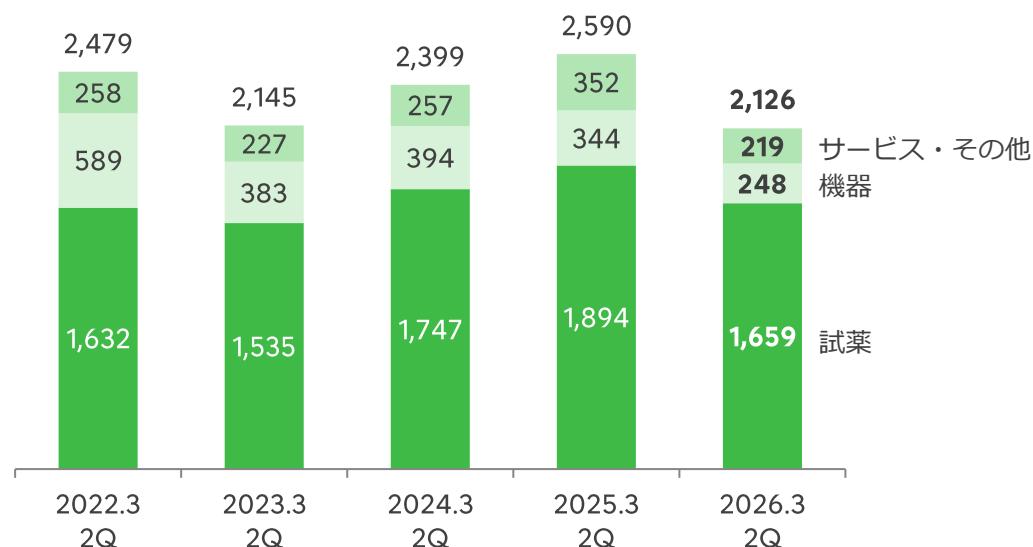
● 試薬

- ✓ トルコ、サウジアラビアで減収も、主要国が好調に推移し、全分野で伸長

中国（地域別）

(Million CNY)	2026年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	2,126.6	2,590.8	82.1%	79.4%
機器	248.5	344.6	72.1%	70.0%
試薬	1,659.0	1,894.0	87.6%	84.6%
サービス・その他	219.0	352.0	62.2%	60.5%

売上高推移（Million CNY）



医療費抑制政策（必要最小限の原則）の影響に加えて、代理店の経営悪化による在庫調整などが進み、減収

● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野は、上位市場の設置台数は前年同等、中下位市場では小型モデルが好調に推移するも、代理店在庫の調整により、減収
- ✓ 血液凝固・免疫分野はノックダウン効果により前年下期から継続して好調に推移し、増収

● 試薬

- ✓ 必要最小限の原則により、市場ではCRP検査の除外や血液凝固分野の検査数が減少
- ✓ 代理店の経営悪化による在庫調整も影響し、減収

中国の事業環境

当社ヘマトロジー検査の状況

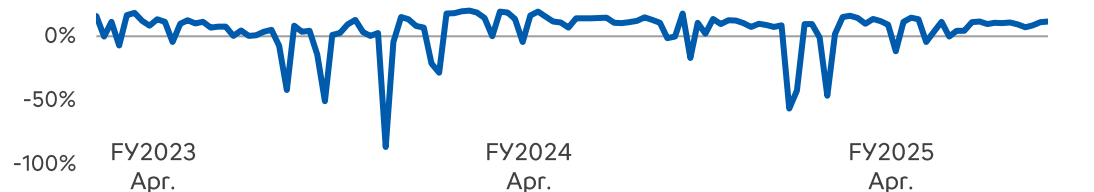
● 厳しい競争環境の中シェア*を維持

37.4% (CY2023) → **37.5%** (CY2024)

* 開示情報に基づいて当社独自で推定データを算出

● ヘマトロジー検査数/台は微減

■ 中国ヘマトロジー検査数推移（当社推計）



● 装置の市場設置台数（2026年3月期上期）

上位市場： 前年同等

中位市場： 中国製XN™-Lシリーズが好調に推移

医療費抑制政策の影響 顕在化

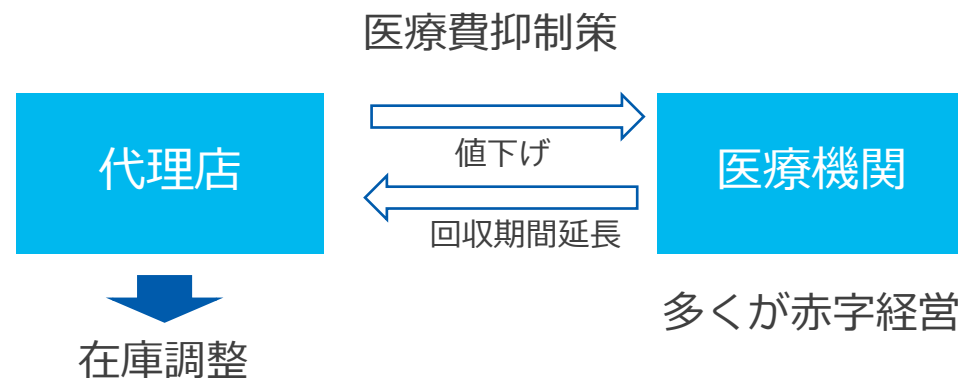
● 必要最小限の原則（セット検査の制限）

中国政府が二級以上の医療機関に対し、必要最小限の原則に従って、セット検査項目の見直しを要求

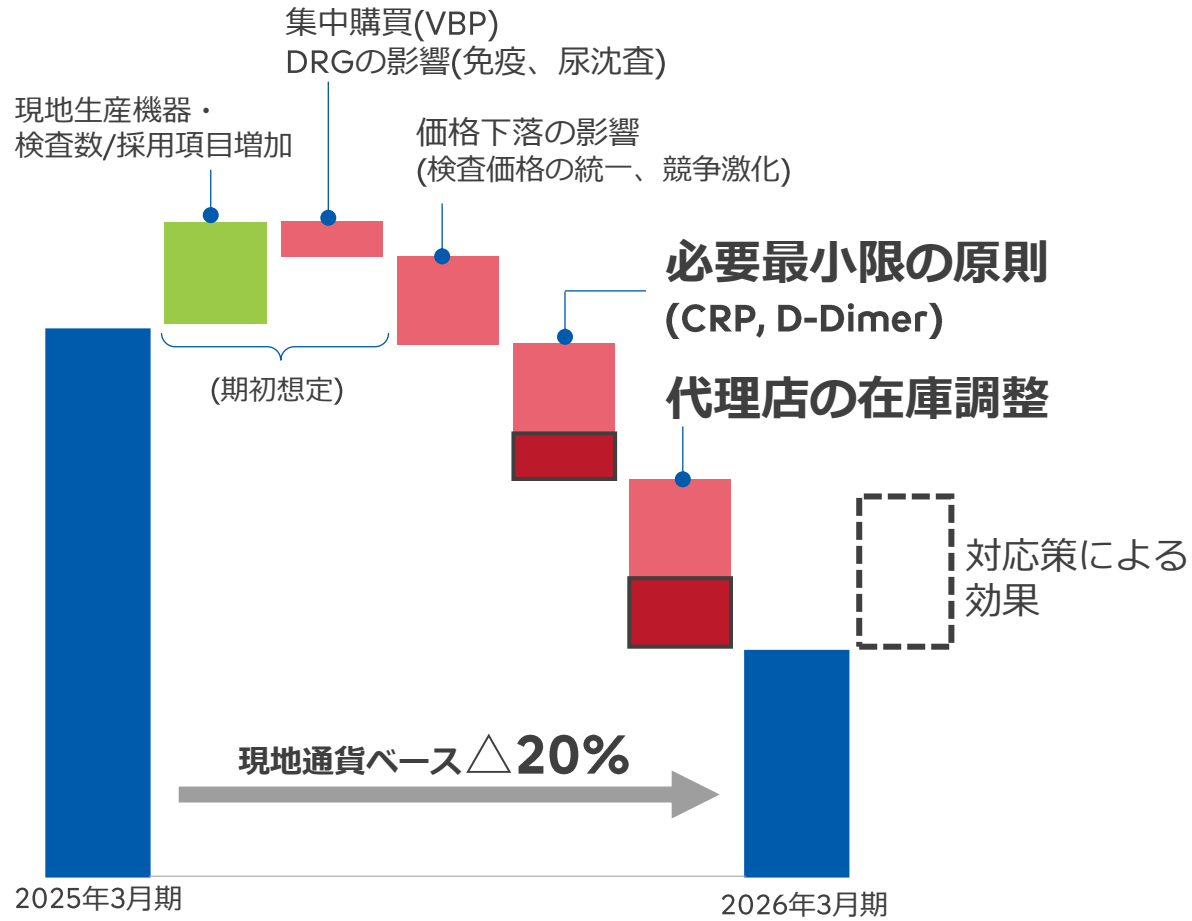
当社への影響が顕在化

- ・ CRP検査の減少
- ・ 血液凝固検査（D-Dimer、消耗品）の減少

医療機関・代理店の経営状態の悪化



市場環境の変化、各種政策の影響を精査し、今期の見通しを修正



今期の見通し

- 必要最小限の原則の影響が継続するも、各種政策による落ち込みは今期末で一巡見込み
- 代理店の在庫調整は、第3四半期から第4四半期にかけて底打ちする見込み

対応策

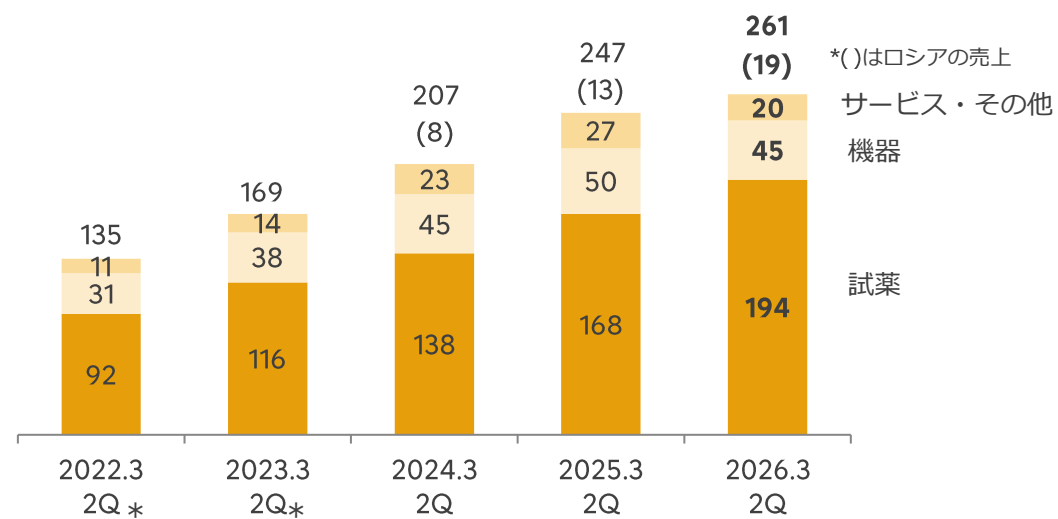
- 直接アプローチ強化による他社攻略推進
- フルオートメーションシステムの提案強化
- 製品ポートフォリオ拡充

AP（地域別）

（億円）	2026年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	261.5	247.4	105.7% (108.7%)
ダイアグノスティクス事業	260.7	247.4	105.3%
機器	45.8	50.6	90.4%
試薬	194.0	168.8	114.9%
サービス・その他	20.8	27.9	74.7%
メディカルロボット事業	0.8	-	-

*()は為替の影響を除いた場合

売上高推移（億円）



* ロシア売上高を含まない

ロシア売上高を含む

機器は減収も、ヘマトロジー・尿分野の試薬が伸長し、上期は増収。2Q単は、インドでのヘマトロジー分野の試薬伸長が牽引し、2桁増収

ダイアグノスティクス事業

● 機器

✓ インドネシアにおける医療機器への予算抑制の影響などにより、減収

● 試薬

✓ インドにおいてヘマトロジー分野が回復した他、フィリピンなど東南アジアでヘマトロジー・尿分野が伸長し、増収

メディカルロボット事業

- ✓ 上期導入台数：1台、累計台数：4台
- ✓ シンガポール、マレーシアでそれぞれ100症例以上実施されるなど、手術数は順調に増加

日本（地域別）

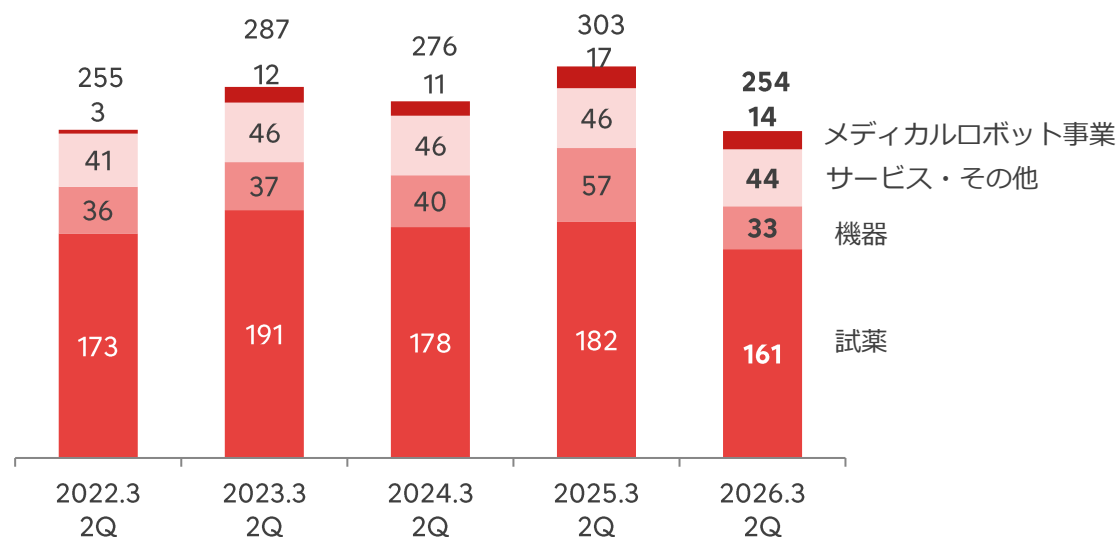
（億円）	2026年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	254.3	303.2	83.9%
ダイアグノスティクス事業	239.4	286.1	83.7%
機器	33.0	57.2	57.7%
試薬	161.8	182.2	88.8%
サービス・その他	44.5	46.6	95.5%
メディカルロボット事業	14.9	17.1	87.1%

前年度の機器好調の影響や、1Qの基幹システム切り替えに伴う受注制限が影響し試薬が減収。なお、試薬売上は通常水準へ回復

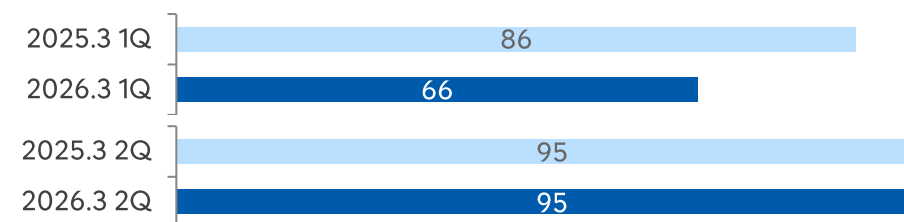
ダイアグノスティクス事業

- ✓ 機器は、前年度のヘマトロジー分野を中心とする機器好調の反動などにより減収
- ✓ 試薬は、受注制限の影響は概ね解消。ヘマトロジー、血液凝固分野で他社攻略が進む

売上高推移（億円）



■ 試薬売上 単四半期比較

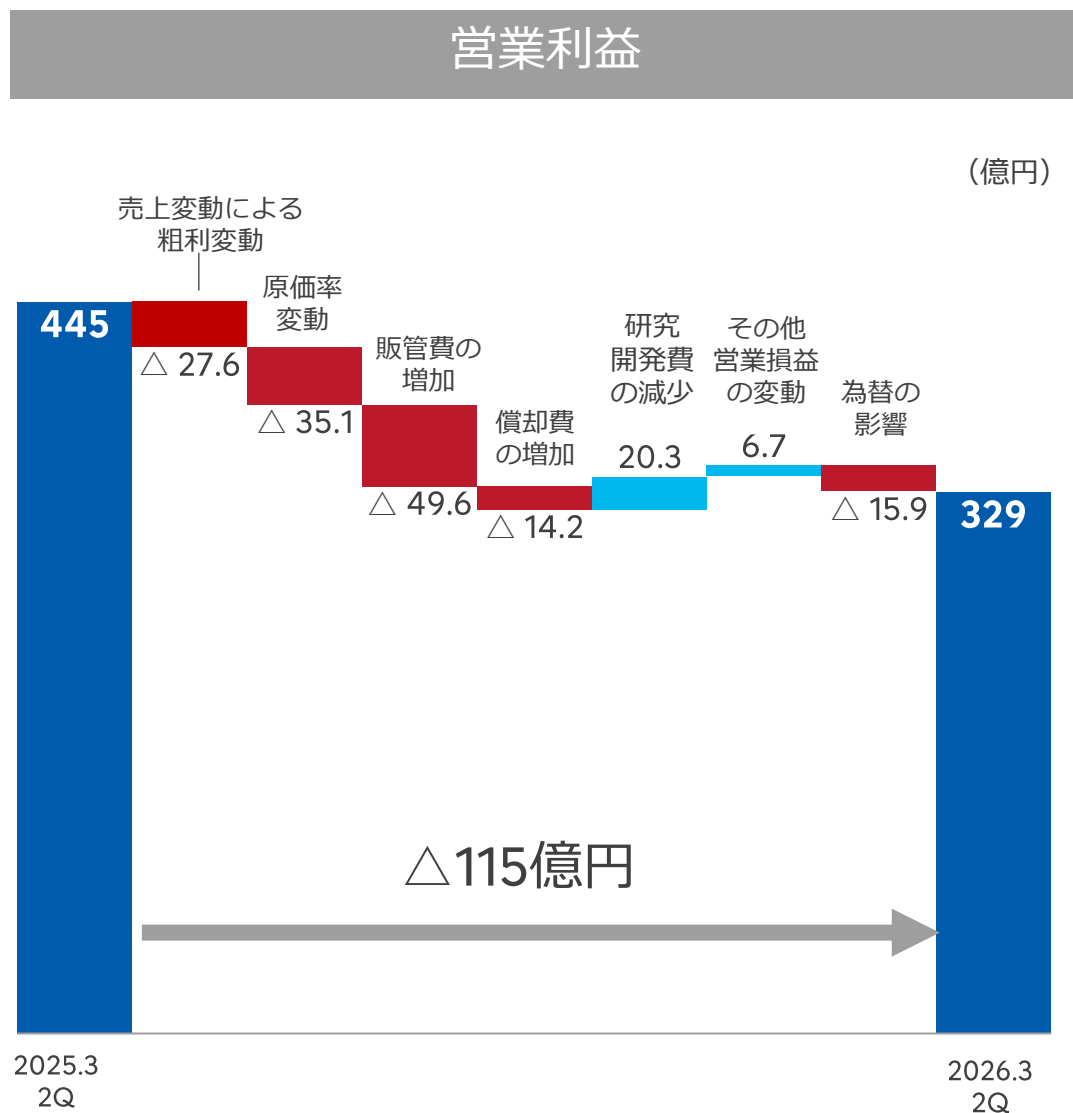


メディカルロボット事業

- ✓ 病院の設備投資が弱く、新規設置台数は減少
- ✓ 上期導入台数：6台、累計台数：92台（グローバル96台）

営業利益の増減要因（対前年）

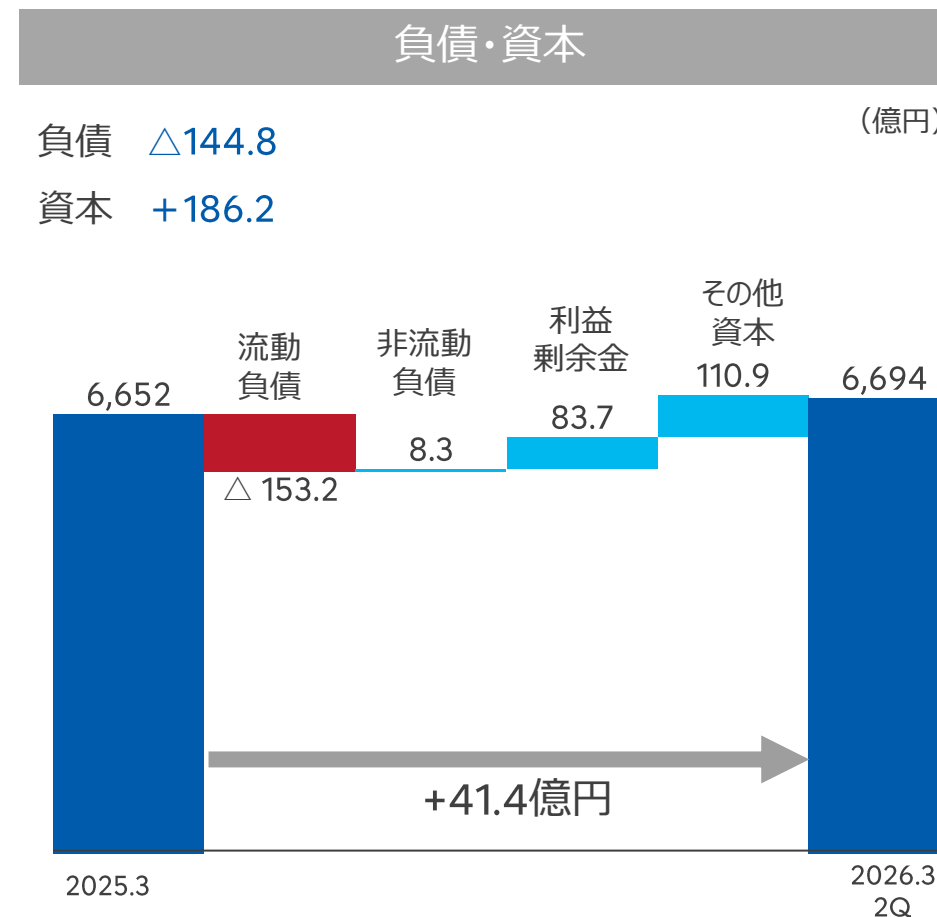
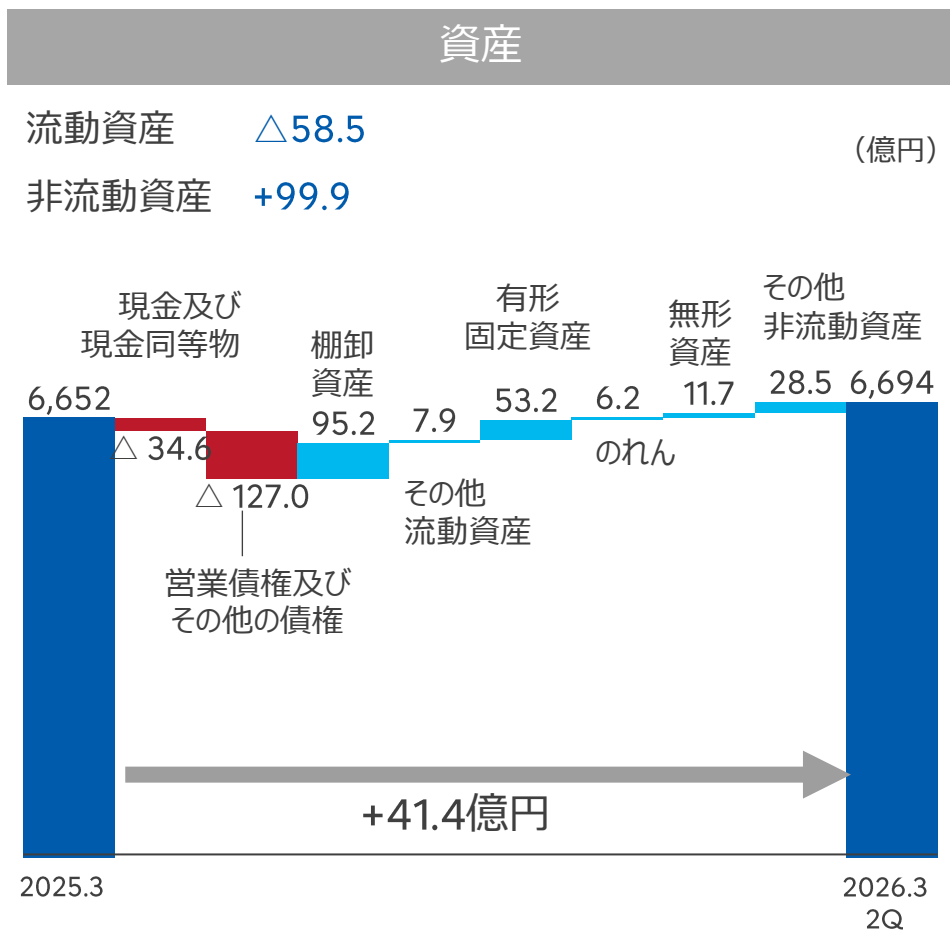
※下記数値・コメントは為替の影響を除く



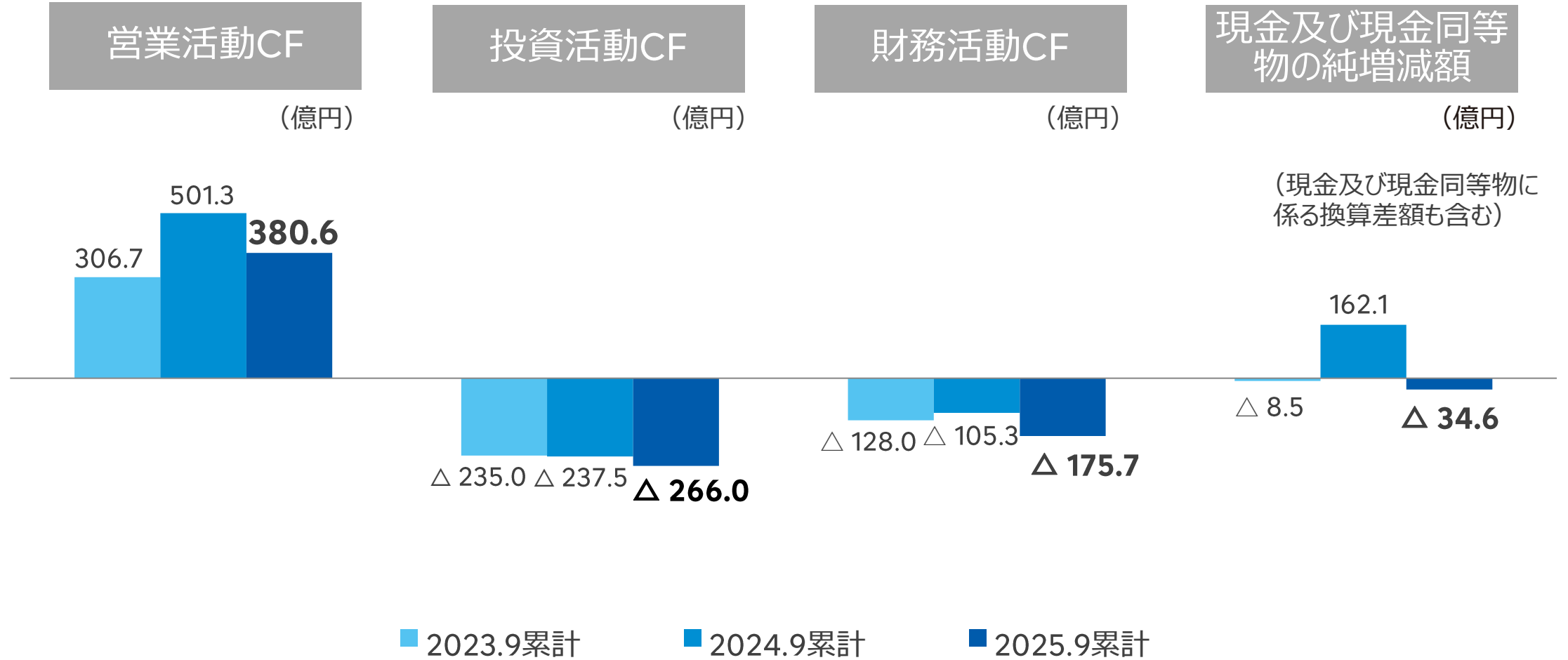
- 売上変動による粗利変動：△27.6億円
- 原価率変動による影響：△35.1億円（1.4pt悪化）
 - ✓ 改善要因：ロジコストの改善 0.1 pt
 - ✓ 悪化要因：棚卸資産の評価額見直し影響 0.7 pt
サービスコストの悪化 0.7 pt、関税の影響 0.2 pt
- 販売管理費の増加：△49.6億円
 - ✓ 労務費：直販地域拡大に伴う人員増や単価増：△24億円
 - ✓ 経費：規模拡大や販促活動による増加：△14億円
- 償却費の増加：△14.2億円
- 研究開発費の減少：20.3億円
 - ✓ 製品開発への投資継続も、ライフサイエンス分野のPivot による研究開発テーマの精査などにより減少
- その他営業損益の変動：6.7億円
- 為替の影響：△15.9億円

連結財政状態計算書の増減要因

資産は営業債権及びその他の債権の減少も、棚卸資産は増加
負債は、法人税の支払いにより流動負債が減少も、為替変動の影響によりその他資本が増加



キャッシュフローの推移



3. 成長戦略の進捗

～ 既存事業の強化・新興国戦略・新規事業の拡大 ～

生化学分野の市場規模

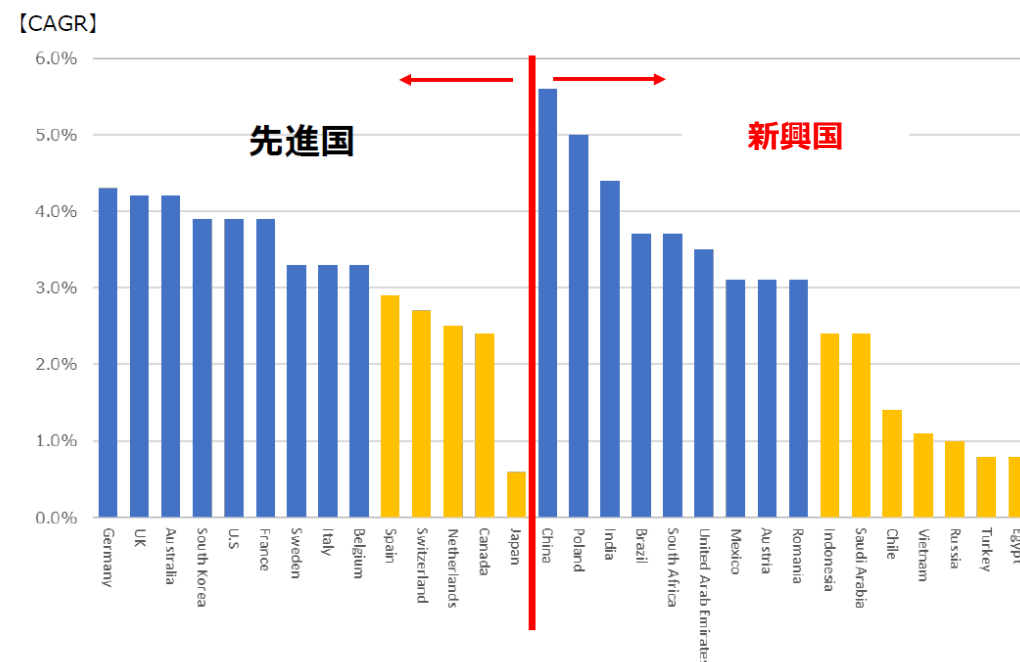
生化学は基本的な検査であり、検査室構築に必須
先進国・新興国共に、スクリーニング検査の需要拡大により持続的な成長市場を形成

■ 生化学分野の市場規模

分野	2024年市場規模 (百万USD)	市場成長率 (2025-2028年)
検体検査市場全体	96,000	3%
免疫分野	27,000	3%
生化学分野	9,000	4%
ヘマトロジー分野	4,300	3%
血液凝固分野	3,200	3%
尿分野	1,200	3%

* 検体検査市場および各検査分の市場規模・成長率（2024年時点）は
開示情報に基づいて当社独自で推定データを算出

■ 生化学分野の国別市場成長予測



出所 : Kalorama 30-Country In Vitro Diagnostics(IVD) Market Atlas[2024]

顧客から寄せられる生化学分野での当社への期待の高まり

新興国は、より高い成長率を予測

日本電子社（JEOL）からの生化学検査事業承継の狙い

- 日本電子社の機器の技術と当社の強みを融合し、試薬・精度管理を含め新興国中心に提供
- 生化学検査を追加することで主要な検体検査のポートフォリオを網羅。データとAIで多様な価値を提供

1. JEOL製生化学装置の特長

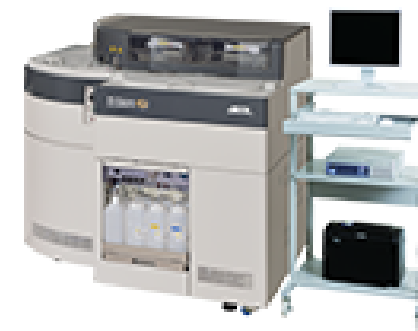
- 独自の検体希釈技術による**微量検体・試薬**
- **高い処理能力**を実現
- 日本市場では、トップシェア

2. 当面の重点地域

日本、新興国、中国（WEGO Medical社との連携）

3. クロージング予定日

2026年4月1日 （既に公正取引委員会におけるクリアランスを取得するなど順調に進捗）



既に当社が一部地域で販売している
BioMajesty™ JCA-BM6010

顧客ニーズに応える当社独自の製品・サービス供給により、
新興国を中心とする検査需要を取り込み、生化学分野の拡大および収益性向上を実現する

機器

JEOLからの 生化学検査事業承継シナジー

製造

- ・ 台数増による量産効果
- ・ 当社の生産機能・サプライチェーンを利用したコストダウン

大幅な原価低減

開発

- ・ 新興国向けコンパクト装置
- ・ 搬送接続を活用した検査統合など

顧客ニーズに応えた開発推進



※ イメージ図

試薬

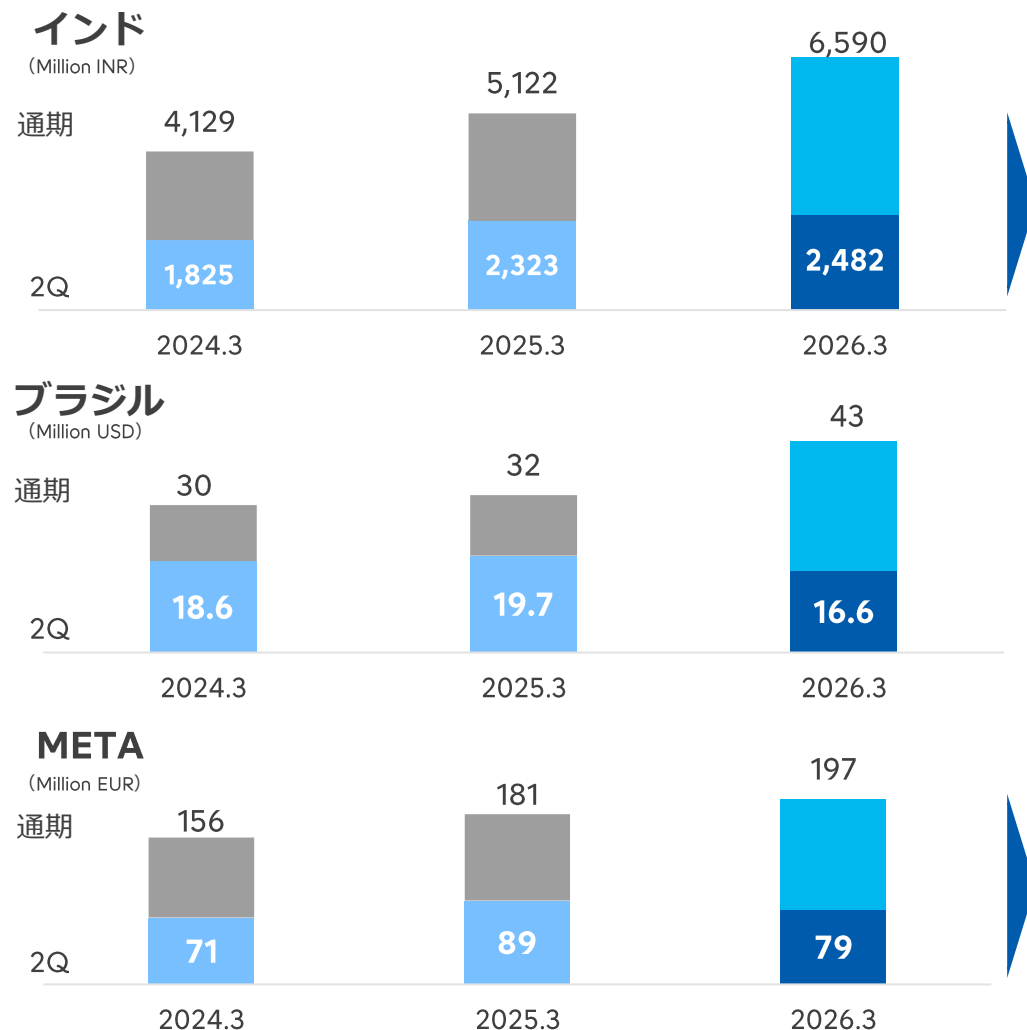
試薬メーカーとのパートナーシップを 発展させ、試薬のグローバル販売を加速 (OEM化を含む)

- ・ ユニーク項目のグローバル展開と微量化測定メリットの相乗効果により収益性を確保

精度管理サービス

- ・ 精度管理システムの海外展開
(Caresphere™)

3つの成長戦略：新興国戦略



*META : Middle East, Turkey, Africa地域

主な取り組み内容

- 直接販売サービスのテリトリーを主要都市から郊外都市へと拡大を進め、**得意とする検査効率化提案により上中位セグメントでの更なるシェア拡大を推進**
- エジプト・トルコなど新興国においても検査室の効率化ニーズが高まっており、ヘマトロジー分野と血液凝固分野の統合システム「Blood Science」の導入が進む。



ストーリー

“検査が医療を支える”を実感できる現場
～EMEAで広がる血液凝固検査の新たな挑戦～

<https://www.sysmex.co.jp/stories/hemostasis-testing-business-revolution.html>

インドにおける戦略的取組み

Make in India に対応した現地生産体制が
順調に稼働中、製品出荷を開始

- 新生産拠点における**機器・試薬の製造が順調に進捗、試薬製品の出荷開始**
- 装置は2026年3月期末に向けて、Local Content 50% (Class I*) 達成を目指す



* Class I: 最低限50% local content (入札時に優遇有り)
Class II: 最低限20% local content (Make in India tenderへ入札可能となる)
(当社調べ)

現地の医療課題改善、市場環境へ適応する
戦略製品の投入と新たな価値の提供

- IT／デジタル技術を駆使し、検査システムの稼働支援と適切なサービス提供を図る第1弾の戦略製品を市場投入
- 公衆衛生や現地特有の医療課題改善に向け、当社独自の検査データを活用した新たなソリューションの創出に向けて官民連携で取り組み中
(次年度中のリリースを目指して検証中)

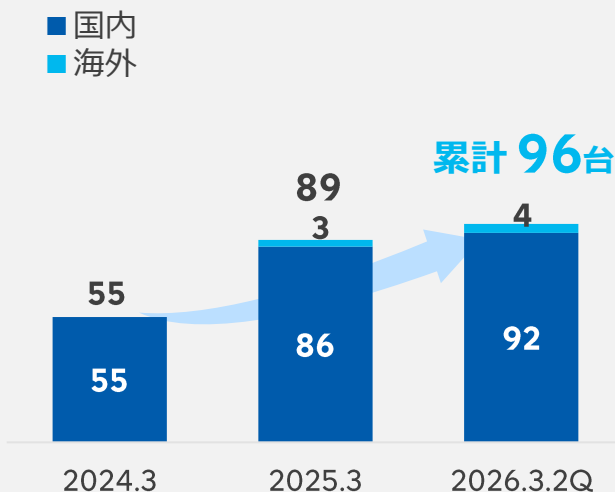


3つの成長戦略：新規事業の拡大（メディカルロボット事業）

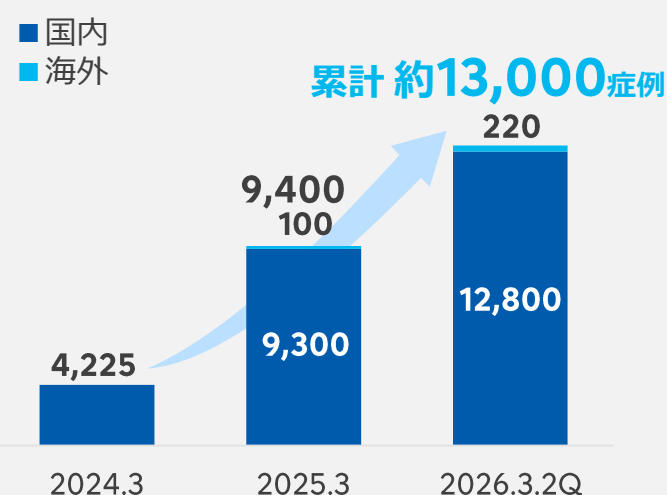
設置台数増加に伴う症例数の伸長、欧州市場への導入準備を推進

- ✓ 日本：幅広い診療科領域のカバー、設置台数の増加などにより、症例数は対前年同期比で約150%伸長
- ✓ AP：症例数は前年度より伸長。臨床実績と信頼性の蓄積により、周辺国へのさらなる普及加速を目指す
- ✓ 欧州：今年度中の薬事認可取得を予定し、トレーニングセンターを開設など市場導入体制構築

hinotori™グローバル累積台数推移



累積症例数の推移



IRCAD Franceに開設された
メディカロイドのトレーニングセンター

4. 2026年3月期 業績予想

2026年3月期 通期業績予想修正



緑字：期初公表（2025年5月）からの変更箇所

中国での事業環境変化等により、売上高・営業利益共に下方修正

(億円)	2026年3月期 上期 (4月-9月)			2026年3月期 下期 (10月-3月)		2026年3月期 通期 (4月-3月)			
	実績	構成比	対計画 達成率	修正公表	構成比	修正公表	構成比	対前年	対期初公表
売上高	2,325.2	100%	96.9%	2,775	100.0%	5,100	100.0%	100.3%	△ 250
売上原価	1,099.7	47.3%	-	1,315	47.4%	2,415	47.4%	102.0%	△ 95
販売費及び 一般管理費	778.7	33.5%	-	856	30.9%	1,635	32.1%	108.4%	+25
研究開発費	132.0	5.7%	-	168	6.1%	300	5.9%	95.4%	△ 30
その他営業損益	14.7	0.6%	-	△ 5	-	10	0.2%	△46.7%	△ 5
営業利益	329.5	14.2%	91.5%	430	15.5%	760	14.9%	86.8%	△ 155

投資計画

設備投資 **500**億円

減価償却費 **450** 億円

ROE

9.5%

● 想定為替レート

	通期 (2025年5月公表)	通期 (2025年11月修正)	下期 (2025年11月修正)
1 USD	142.0円	148.5円	151.0円
1 EUR	160.0円	171.5円	175.0円
1 CNY	19.5円	20.8円	21.3円

● 為替感応度の概算値（下期）

	売上	営業利益
USD	4.1億円	0.5億円
EUR	3.1億円	0.1億円
CNY*	2.3億円	1.5億円

*0.1円変動時

参考 | 2026年3月期業績予想（事業・分野別・地域別売上高）



事業・分野別売上高

（億円）

	2026年3月期	前年同期比
ヘマトロジー分野	3,035	100.1%
FCM分野	55	151.2%
尿分野	445	109.0%
血液凝固分野	785	95.3%
免疫分野	220	85.0%
生化学分野	35	96.3%
ライフサイエンス	240	112.5%
その他	235	104.8%
ダイアグノスティクス事業	5,050	100.3%
メディカルロボット事業	50	93.1%
合計	5,100	100.3%

地域別売上高

（億円）

	2026年3月期	前年同期比
米州	1,390	106.0%
EMEA	1,600	114.0%
中国	935	79.3%
アジア・パシフィック	565	110.1%
日本	610	90.0%

緑字：変更箇所

予想配当額

- 配当額は前年から6円増配（期初公表から変更なし）

	中間	期末	年間	配当性向
2025年3月期	15円	17円	32円	37.4%
2026年3月期 (予想)	19円 *記念配当1円含む	19円 *記念配当1円含む	38円	53.0%

成長要素を取り込み、2026年3月期からの大幅な増収増益を目指す

成長要素

- 海外地域における堅調な成長
 - 欧米での血液凝固事業の拡大
 - インドなど新興国での成長継続
 - 手術支援ロボットhinotoriの欧州導入
- 生化学検査の事業開始
- 日本および中国の回復
- デジタルを活用した新たな価値提供
 - Sysmex AI を2026年3月期中にリリース予定

(1) Sysmex AIの特徴



● 検査・診断の専門的知識を有する

- ✓ 検査医学知識
- ✓ 大規模なレセプトデータ、シスメックスが保有する学術・検査データ



● リスク推定精度向上のための検査推奨

- ✓ シスメックス製品が持つリサーチ項目
- ✓ シスメックス独自のバイオマーカーの活用



● 臨床現場に対応したオンプレミスLLM対応

- ✓ 外部インターネットの接続を必要とせず動作可能なセキュアなAI



(第22回技術説明会資料より)

(補足資料)

トピックス（2025年7月～10月）

ダイアグノスティクス事業

- 日本電子株式会社の生化学検査事業承継により、ポートフォリオ拡充とグローバル展開を加速
- イルミナ社とTruSight™ Oncology Comprehensive パネルシステムの 国内独占販売店契約を締結（日本）
- 「AmoyDx®肺癌マルチ遺伝子PCRパネル」、肺がんの新薬「タレトレクチニブ」の唯一のコンパニオン診断薬として一部変更承認を取得
- 赤血球・白血球の基準測定操作法が国際機関JCTLMのデータベースに登録
- 感染症・がん領域の臨床用検査製品に関する日本での独占的販売・供給契約をキアゲン社と締結

サステナビリティ

- 業界初、試薬容器の水平リサイクルがプラ新法認定
- GPIFが採用する全てのESG指数の構成銘柄に選定
- 業界初のTNFD Adopterとして事業成長と環境負荷低減を両立



Together for a better
healthcare journey